

令和5年度第1回学校評価結果のお知らせ

お忙しい中、保護者の皆様には、7月に実施しました「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。結果がまとまりましたのでご報告いたします。

梅津北小学校が学校教育目標の実現に向けて、特に大事にしたいことに絞ってアンケートをとり、保護者・児童（低学年、高学年）・教職員の3者を比較できるようにしました。継続すべきところ、改善すべきところを明らかにして、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

アンケートの方法

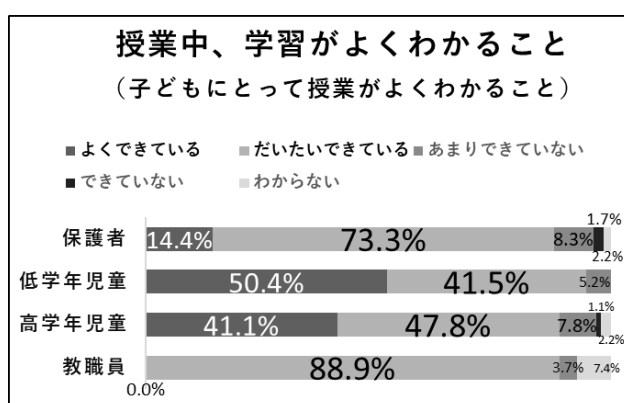
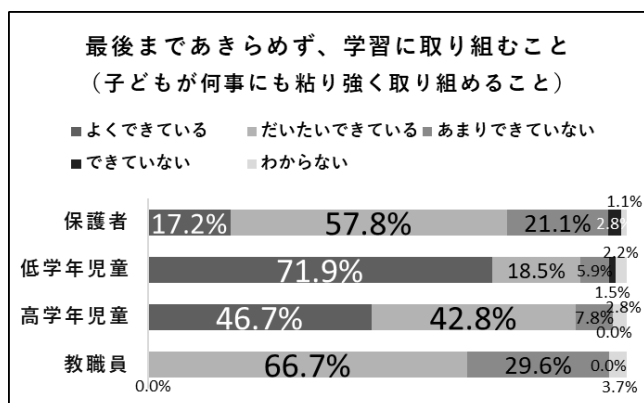
アンケートの項目を、【確かな学力】【豊かな心・健やかな体】【学校・家庭・地域の連携】のグループに分け、それぞれの項目について「重要度－実現度」を尋ねる形式にしました。この二つを相互に関連させたとき、重要度・実現度がともに高い項目は比較的肯定的なご意見が多く、重要度が高く実現度が低い項目は本校の課題とみることができます。

アンケート結果より

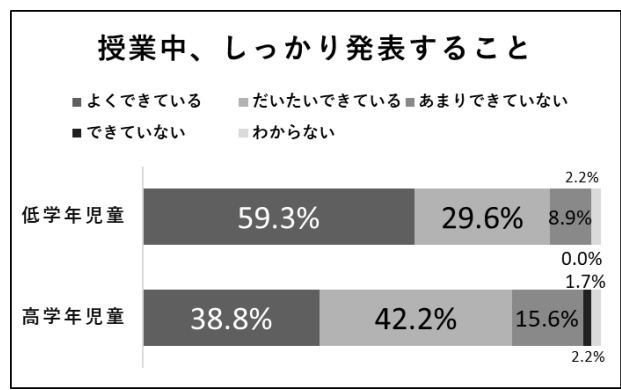
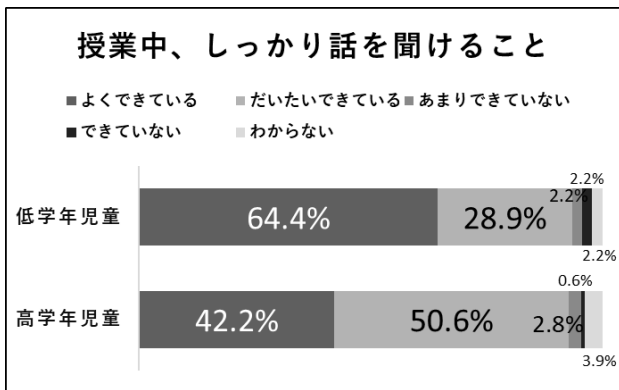
※実現度についてグラフ化しています。

※全項目は掲載できませんので、ご了承ください。

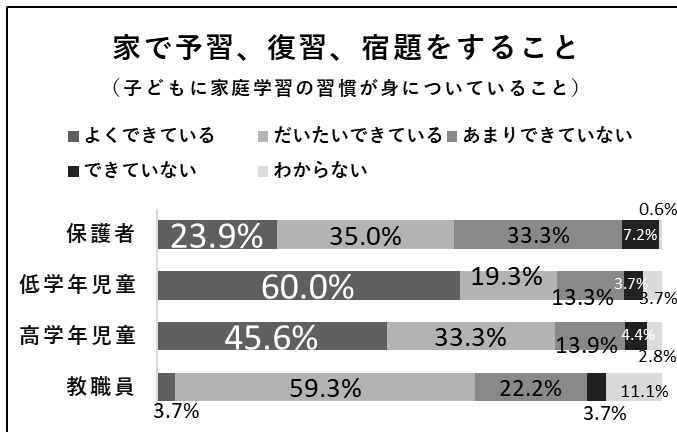
【確かな学力】



今年度より「夢に向かって 自ら考え 行動し 最後までやり遂げる子を育てる」を学校教育目標に掲げて、様々な教育活動に取り組んでいます。学習の中では、個々にめあてをもって、自らの課題を自分なりに考え友達とかかわりながら解決することを大切にしています。◆『最後まであきらめず、学習に取り組むこと』の設問に、約90パーセントの児童が「よく(だいたい)できている」と回答しています。高学年は昨年度と比べても増加しています。◆『授業中、学習がわかること』は、低学年・高学年ともに約9割の児童が「よく(だいたい)できている」と回答しています。これは粘り強く学習に取り組んでいることが積み重なって、「学習がわかること」につながっていると思われます。授業では、児童の主体的な学びを大切に、最後までやりきることを通して、「わかる」「できる」という実感をもてるようにしていきたいと思います。



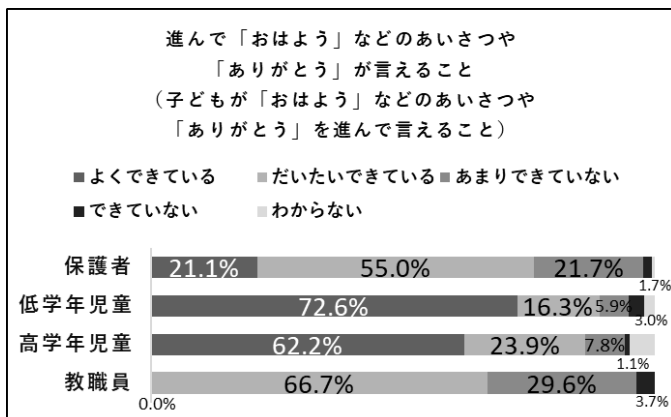
これまで授業に伝え合う活動を取り入れるなど、相手に自分の思いや考えを伝え、相手の思いを汲み取ることを大切に指導してきました。◆『授業中、しっかり話が聞けること』は、低学年・高学年の児童とも90%以上が「よく(だいたい)できている」と答えています。一方、◆『授業中、しっかり発表すること』では、「よく(だいたい)できている」と答えた児童が、低学年では約88%、高学年では81%と、多くの児童ができています。しかし、「聞くこと」に比べて「話すこと」は例年低くなっています。今年度から梅津北小学校の育成を目指す資質・能力の一つとして「思いを言葉にする力」を挙げています。授業の中で教師や友達とのかかわりの中で、子どもたちが自らの考えを言語化し伝え合うことができるよう取り組んでいきます。



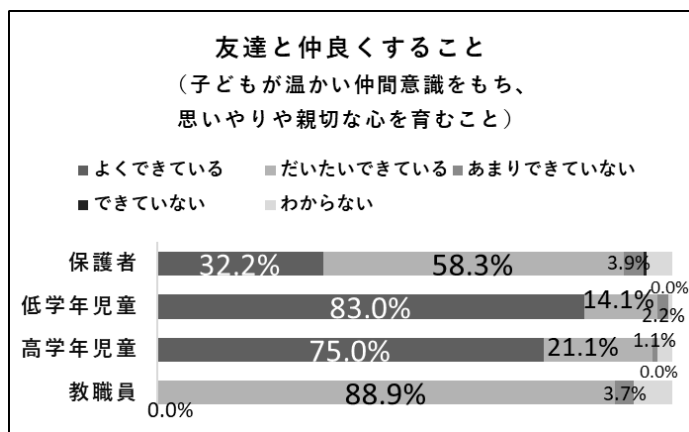
◆『家庭学習の習慣が身に付いていること』の重要度は、教職員・保護者とも、95%以上が、「(やや)重要である」と答えています。しかし、左図の通り実際の実現度である◆『家で予習、復習、宿題をすること(子どもに家庭学習の習慣が身についていること)』では、「よく(だいたい)できている」と答えた児童が8割弱、教職員・保護者も約6割と、昨年度のアンケート結果よりも減少していました。学校の授業に比べ、家庭で自ら学習することについては最後まであきらめずに取り組め

ていないと感じている児童が増えています。自分で時間を確保して、必要な課題を見つけ、分かるまで粘り強く学習する力は、学年が上がるにつれて重要になってきます。自分に合ったやり方で、毎日少しずつでも取り組むことを続け、家庭で主体的に学習することを習慣としてほしいと思います。

【豊かな心・健やかな体】

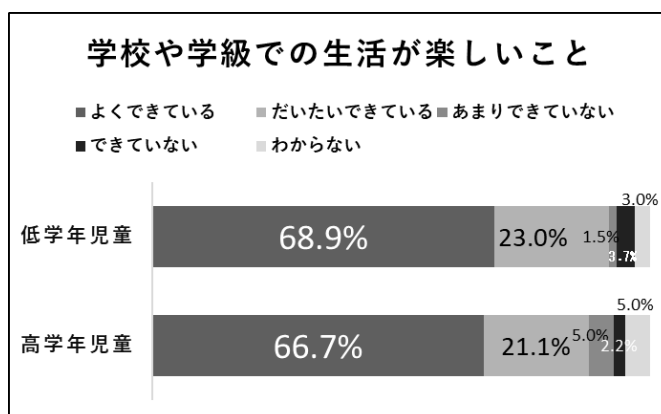


◆『進んで「おはよう」などのあいさつや「ありがとう」が言えること』で、「よく(だいたい)できている」と答えた割合は、児童では約85%でした。一方、教職員・保護者は子どもたちほどあいさつの実現が高いと感じておらず、認識に差がありました。あいさつができていない場面とできていない場面があるのではないかと思います。あいさつは自分と相手をつなぐコミュニケーションの第一歩です。お互いに気持ちよくあいさつができるように、児童も大人も改めて心がけていきたいですね。

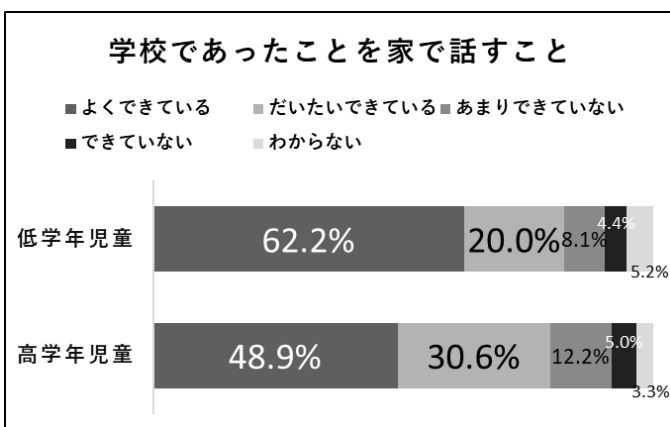


◆『友達と仲良くすること(子どもが温かい仲間意識をもち、思いやりや親切な心を育てること)』で、「よく(だいたい)できている」と答えた割合は、低学年・高学年ともに95%を超え、保護者・教職員も約9割が仲間意識や思いやりを感じています。子どもたちが自分の思いを表現し合う中で、これからもお互いのことを尊重し、温かい仲間意識をもてるようにしてほしいと思います。

◆『学校や学級での生活が楽しいこと』で、「よく(だいたい)できている」と答えた割合は、低学年・高学年ともに約9割でした。保護者・教職員も約9割が、子どもたちは楽しく学校に通っていると感じています。子どもたちが温かい仲間意識をもち、互いに支え合いながら、学習やその他の活動に主体的に取り組み、これまで以上に学校生活を有意義に過ごせるようにしてほしいと思います。

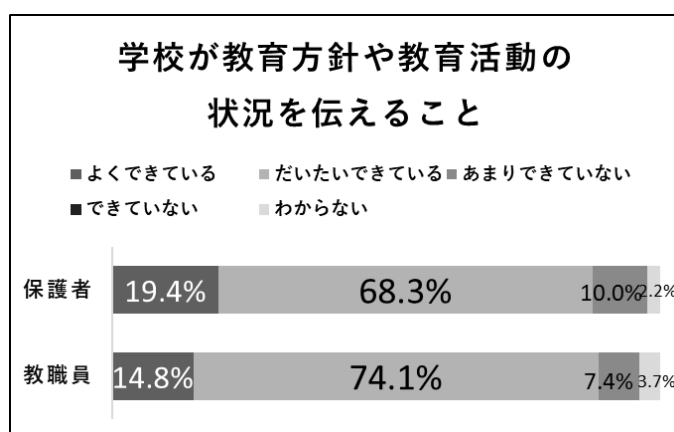


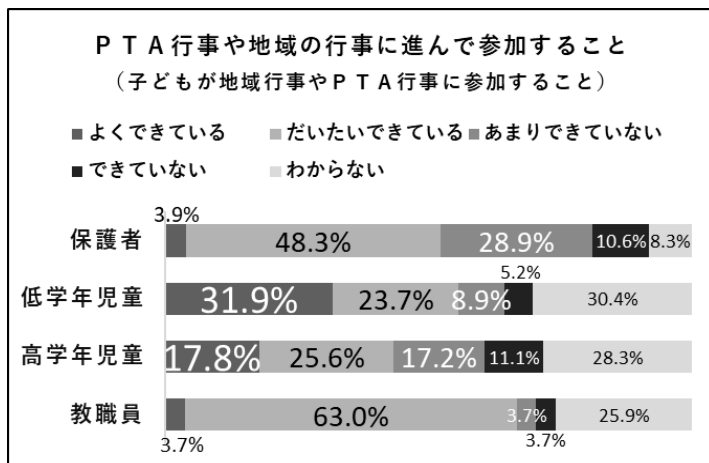
【学校・家庭・地域の連携】



◆『学校であったことを家で話すこと』で、約8割の児童が「よく(だいたい)できている」と回答しています。また、保護者の87%が「よく(だいたい)できている」と回答していました。家庭でお子さんの話に耳を傾ける時間をとって、学校の様子を尋ねてくださっていることが分かりました。

◆『学校が教育方針や教育活動の状況を伝えること』で、保護者が「よく(だいたい)できている」と答えた割合は87%でした。授業参観・懇談会へ参加いただいたり、学年・学級だよりや学校ホームページを見ていただいたりして、学校の様子を知ってくださっていることが分かりました。今後も引き続き情報を発信し、子どもたちの様子を伝えていきたいと思ひます。





◆『PTA行事や地域の行事に進んで参加すること』で、高学年では「よく(だいたい)できている」と答えた割合が昨年度のアンケート結果より上昇していました。保護者・教職員も同様に子どもたちが参加していると答える割合が増加していました。コロナ禍の時のような制限がなくなり、少しずつ地域の行事も開催されるようになったことで、子どもたちが参加するようになってきています。また、学校でも、PTAや地域

の方がボランティアとして支えてくださったり、学習のゲストティーチャーとなってくださったりしています。今後も地域や保護者の方と手を携えて、子どもたちを応援していただけると嬉しいです。

9月27日(水)に今年度1回目の学校運営協議会を行いました。ふりかえりアンケートの結果をもとに、学校運営協議会の理事の方にご意見などをいただきましたので、ご紹介いたします。

第1回学校運営協議会でのご意見

【確かな学力】

- 授業の中で、写真撮影やインターネットでの検索、発表資料の作成、意見の交流など、様々な場面でタブレットが使用されていて、梅津北小では活用が進んでいると分かった。
- タブレットの活用は喜ばしいが、漢字や文章を書く機会が減るため、国語力の低下につながるのではと心配である。授業においてノートに書くことや家庭での漢字の学習などに取り組んでいることが分かったので、今後も続けてほしい。
- 「聞くこと」「話すこと」ができていると回答している児童が多かったが、先日ゲストティーチャーとして話をした際に、3年生の児童がしっかりと聞いている姿があった。また、発表を聞く機会もあったが、うまく話せていた。取組の成果だと感じた。
- 「授業中、学習したことが分かる」で、「できている」と回答した割合が高く、学校での様々な取組の効果もあり、「分かった」と感じている子どもが多いことが分かった。理解と定着・活用は別だと思うので、もっと学んだことを身に付けて活用できるようになってほしい。

【豊かな心・健やかな体】

- 登校の様子を見ると元気がない子が多いように思う。登校時の見守り活動を行うときには、登校班の雰囲気をよくすることを心掛けている。特に1年生には話しかけて楽しい思いになるようにしている。
- 登校時に友達と楽しそうに過ごしている子どもはあいさつを返している。友達と話していない子どもはあいさつを返してくれないことがある。見守る大人が子どもに声をかけ、あいさつをしやすい雰囲気を作ることが大事だと思う。

【学校・家庭・地域の連携】

- 「子どもが家で学校であったことを話す」が「できている」と回答している割合が高かったが、子どもがよく話している現れだとは思いますが、会話が一方通行にならないようにすることが大事だと思う。
- 学校での子どもたちの様子がよく分かるので、学校ホームページを楽しみにしている。家庭でもホームページを見ていたら、保護者と子どもの会話のきっかけになるので、とても良いツールだと思う。

貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後とも梅津北小学校の子どもたちのよりよい成長に向け【学校】【家庭】【地域】で連携していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。